

とやま水と緑の森づくり検討委員会報告書（案）

— 県民みんなで守り育てる「とやまの森」 —

【概 要 版】

平成 17 年 10 月

とやま水と緑の森づくり検討委員会

はじめに

- ・ 県土の2／3を占め、多種多様な動植物が生息・成育する豊かな本県の森林は、水源かん養や災害防止などの公益的機能を発揮し、県民の生活と富山の産業を支えてきた。
- ・ 一方、生活様式の変化などによる里山の放棄や、林業採算性の悪化などによる人工林の手入れ不足により、これら森林の持つ公益的機能の低下が懸念されている。また、昨年のクマの異常出没を背景に、森林の保全整備に対する県民の関心が高まっている。
- ・ これらのことから、本委員会では、豊かな「とやまの森」を次代に引き継ぐため、森林の保全整備のあり方と、それを県民全体で支える仕組みづくりについて検討することとなった。

1. とやまの森の現状と課題

(1) 本県森林の特徴

- ・ 県土の2／3を占める本県の森林は、**本州一の植生自然度**を誇り、多種多様な動植物が生息・生育している。
- ・ 本県の森林が発揮する公益的機能の評価額は、一例では**1兆1千億円**と試算される。
- ・ 本県の**保安林率は全国第一位**で、森林の持つ公益的機能に対する県民の期待は高い。

(2) 天然林の現状と課題

- ・ **奥山は豊かな自然林**となっており、多種多様な動物の生息環境として優れており、水土保持機能も高い。
- ・ **里山は、生活様式の変化などにより放棄**され、多くは自然の変化により成熟の方向にあるが、林内が暗くなることで明るい林を好む動植物が減少し、一方ではクマの生息域が拡大するなど、生物相が変化している。また、一部では**放置された竹林が拡大**している。
- ・ 里山の再生には継続的な手入れが必要であり、地域のニーズや森林の状態に応じた、**多様な森づくり**が必要である。

(3) 人工林の現状と課題

- ・ 林業採算性の悪化などにより、間伐などの**手入れが不足している人工林が発生**し、公益的機能の低下や気象害の発生が懸念される。
- ・ 地球温暖化防止と、これからの循環型社会の構築には、持続的な木材生産と利用は不可欠であり、**公益的機能の確保と木材生産との両立**を目指す必要がある。

(4) 県民参加の森づくりの現状と課題

- ・ 本県は「**草刈十字軍**」に端を発する森林ボランティア活動発祥の地であり、現在**25団体**が森林整備活動に取り組んでいる。
- ・ 県民意識調査では回答者の**91.9%**が県民参加による森づくりの必要性を認めている。



里山から奥山まで多様な「とやまの森」



1961 年撮影



2000 年撮影

航空写真で見る里山の変化

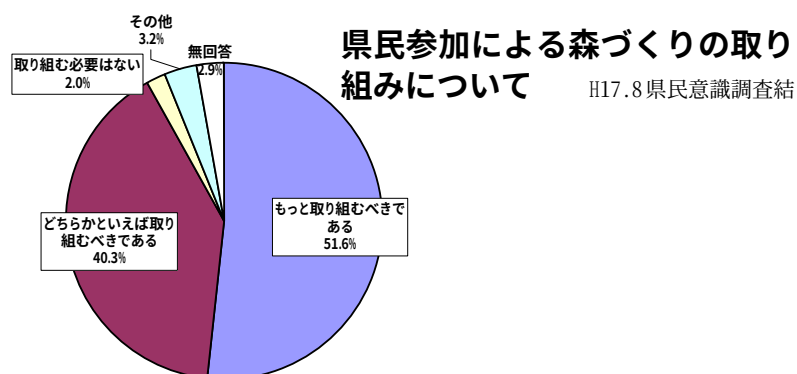


間伐などが行われていない放置人工林



平成 16 年の風雪害被害地

人工林の荒廃状況



2. 森林の保全整備の基本指針と 県民参加による森づくりの推進体制のあり方

(1) 基本方針

- ・ 森林の保全・整備にあたっては、森林の状態や立地条件に加え、地域ニーズなどを反映した**多様な森づくりを目指す**。
- ・ 県民参加による森づくりの推進にあたっては、計画・実行・評価・改善（PDCA マネジメントサイクル）の各プロセスの中で、**幅広い県民の参加を得て進める**。

(2) 森林の保全整備の基本指針

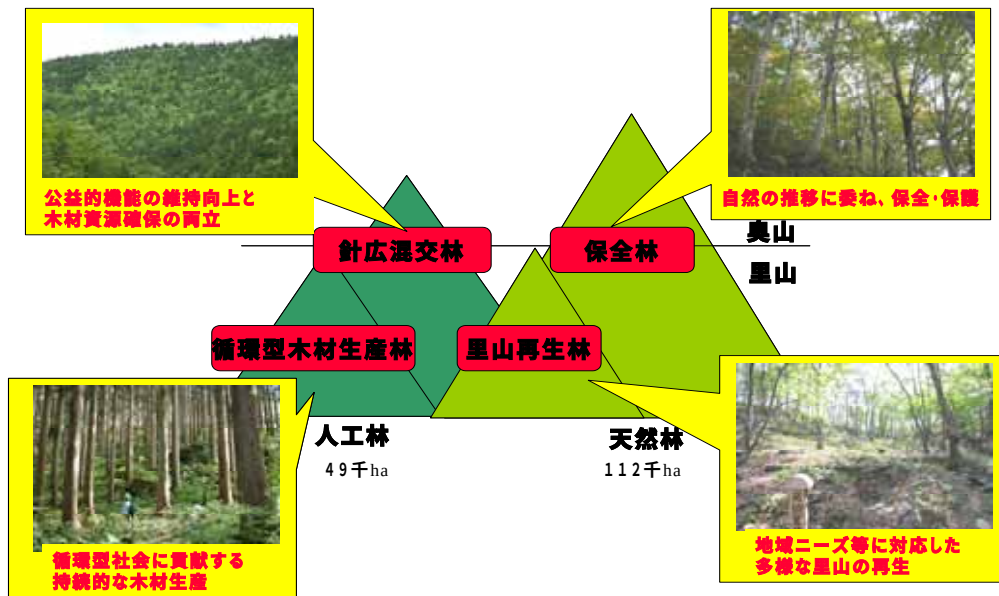
- ・ 天然林は、地域ニーズ等に対応した多様な里山の再生を目指す「**里山再生林**」と、原則として自然の推移に委ね保全・保護する「**保全林**」に区分する。
- ・ 人工林は、循環型社会に貢献する持続的木材生産に重点を置く「**循環型木材生産林**」と、公益的機能の維持・向上と長期的な木材資源確保の両立を図る「**針広混交林**」に区分する。

(3) 県民参加による森づくりの推進体制

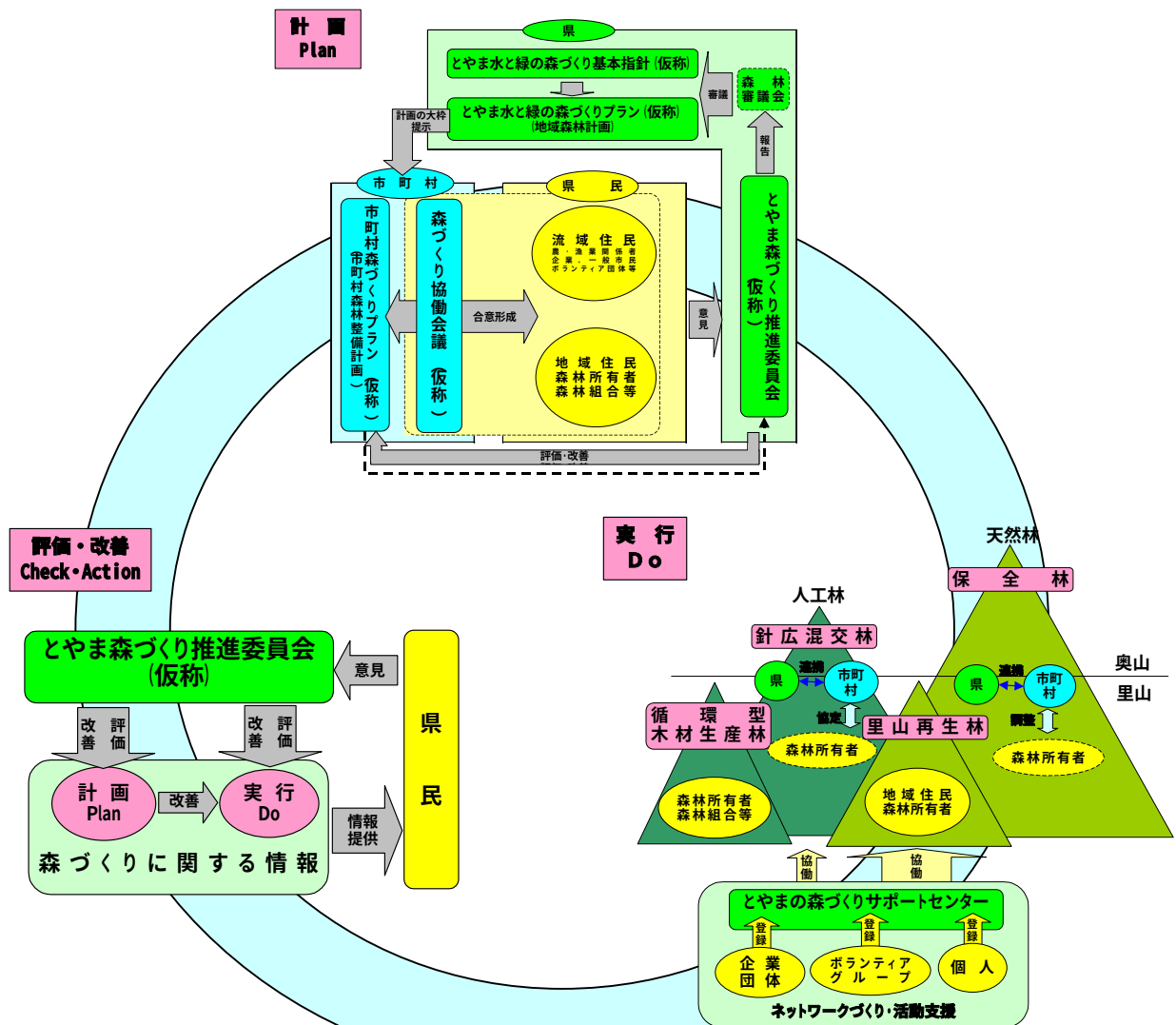
- ・ 森づくりの計画にあたっては、県は、今後の森づくりの基本指針となる「**とやま水と緑の森づくり基本指針（仮称）**」と具体的計画の大枠となる「**とやま水と緑の森づくりプラン（仮称）**」を定める。これに基づき、市町村では「**森づくり協働会議（仮称）**」にて幅広い市民との合意形成を図り、「**市町村森づくりプラン（仮称）**」の策定に努める。
- ・ 森づくりの実行にあたっては、県や市町村、地域住民や森林所有者等の緊密な連携のもとに実施する。また、「里山再生林」等の整備を幅広い県民の協働により進めるため、県は「**とやまの森づくりサポートセンター**」を設立し、県民参加による森づくりを支援する。
- ・ 森づくりの評価・改善のため、県は森づくりに関する情報を県民に提供し、また、県民各層の代表者などで構成する「**とやま森づくり推進委員会（仮称）**」を設置し、森づくりの計画と実行について評価し、改善を図る。

森林の保全整備の基本指針と県民参加による森づくりの推進体制のあり方

【森林の保全整備の基本指針】



【県民参加による森づくりの推進体制】



(4) 県民参加による森づくりの推進のための方策（右図参照）

- ・ 平成 18 年度からの「とやまの森づくりサポートセンター」の本格的な活動に向け、森林ボランティアを含め幅広い県民の意見を反映しながら、活動内容の充実を図り、より多くの県民の参加による森づくりを推進する。

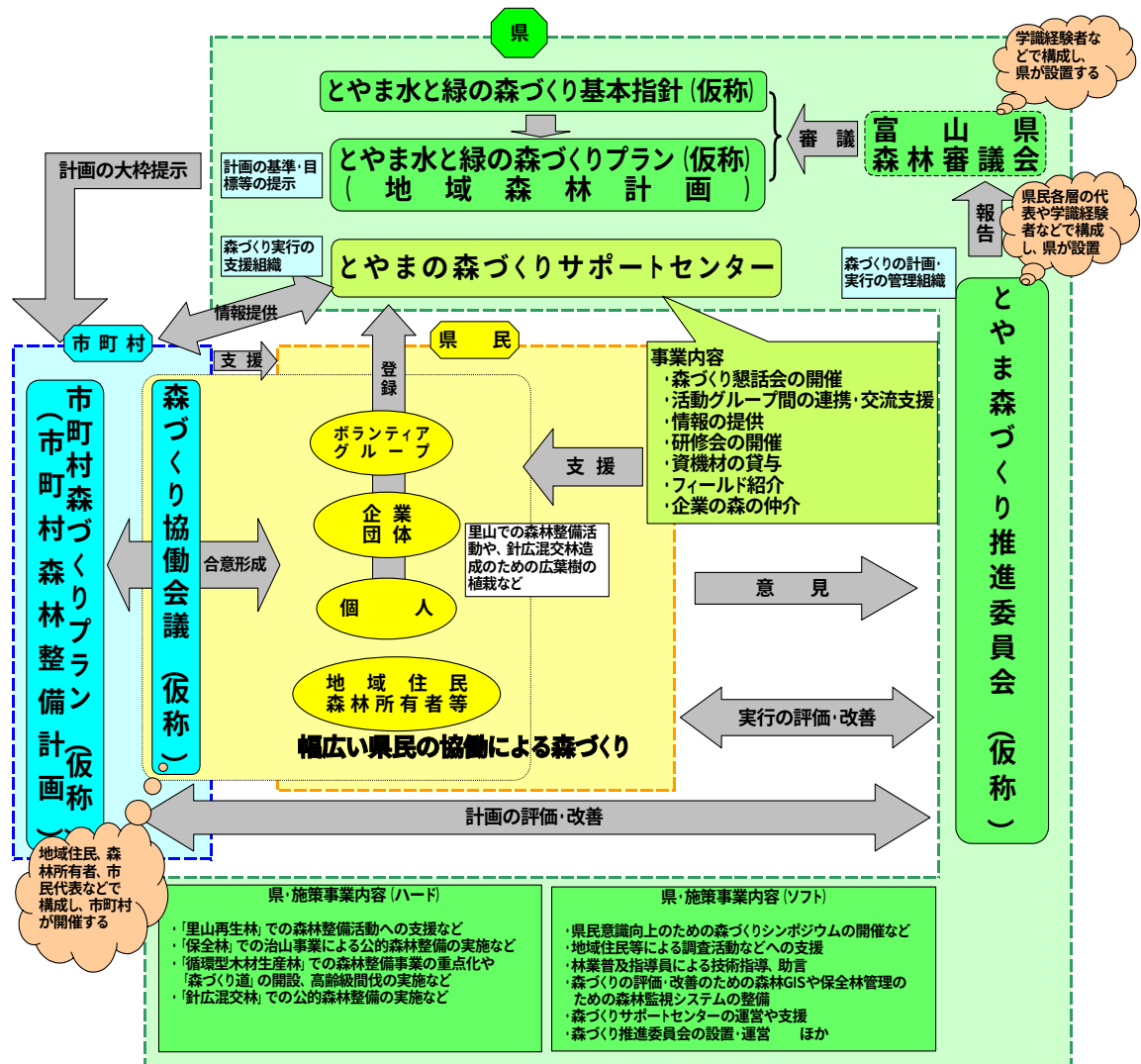
(5) 森づくりの推進方策と財源等の検討について

- ・ 今後は、「とやまの森づくりサポートセンター」の具体的な活動内容や、ボランティア活動と森林所有者等との協力体制のあり方、放置人工林の針広混交林化など、**県民全体で支える森づくりの推進方策**について具体的な検討を行う必要がある。
- ・ 一方、森林の保全・整備に必要な財源の確保については、森林の持つ公益的機能に鑑み、県独自課税の導入も一つの方策であり、県民意識調査の結果では、回答者の**84.5%**が森づくりにかかる独自課税の導入に賛意を示している。
- ・ このため、**県民全体で支える森づくりの具体的な推進方策や、それに必要な財源の確保方策**について、広く県民や有識者の意見を聞いて進めていくことが重要である。
- ・ このことから、今後、できるだけ早く**県民各層の代表や専門家等による検討組織**を早急に設置し、具体的な検討を十分行っていく必要がある。

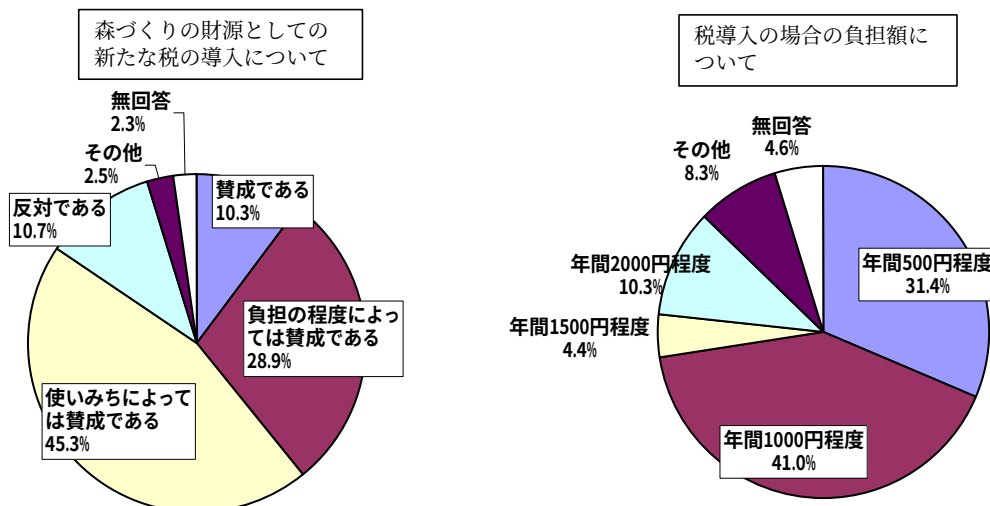
まとめ

- ・ **里山の再生・保全のあり方や、経済的に手入れが困難な人工林の取り扱い**などについて一定の方針と、**幅広い県民が森づくりに参加していく仕組み**について取りまとめることができた。また、**森づくりの推進方策とそれに必要な財源確保について具体的に検討する組織**の早急な設置も提案した。
- ・ 森林の現状と公益的機能についての一層の**広報活動の必要性**や、森づくりに関連して**県産材の需要拡大**や、森林整備の担い手の確保、専門技術者の養成などの**人づくり**も重要な課題であることを再認識した。
- ・ 今後、県民参加による多様な森づくりを着実に進めるためには、次のことが重要である。
 - ① **森づくりの基本指針と森づくりプランの策定**による、全県的な森づくりの推進体制の整備
 - ② 「とやまの森づくりサポートセンター」の活動充実などによる、より多くの**県民参加による森づくりの推進**
 - ③ 森林教室などの普及啓発事業や、多様な広報手段を用いた県民への情報提供による、**森づくりを支える県民意識の醸成**
 - ④ 森づくりに対する県民の高い関心を踏まえた、**県民の意向に沿った施策の展開**
 - ⑤ 県民各層の代表等からなる検討組織による、**森づくりの推進方策とその財源に関する具体的な検討**
 - ⑥ 森づくりの理念、施策の基本方針、県や市町村の計画策定等を盛込んだ、**総合的な森づくり条例制定の検討**

県民参加による森づくりの推進体制とその方策



森づくりにかかる独自課税についての県民意識調査結果



H17.8 県民意識調査結果から